

⑥ 蔵館スポーツ&チャレンジクラブ 【大鰐町】

対応者：代表 山本孝一さん
副代表 笹田和夫さん

訪問日：平成21年8月10日

訪問者：秋庭隆貢委員

小笠原睦男委員



- 地域の子どもたちのために、地域にゆかりのある教員が自主的に活動。
- 学校では実施が難しい体験活動を、社会教育の立場で実現。
- 目的やねらいが明確で、学校や家庭の理解を得て大きな成果。

体験活動事業の概要

【事業名】 あじゃら山登山&キャンプ

【事業主体】 蔵館スポーツ&チャレンジクラブ

【活動日】 平成21年8月10日～8月11日（※年間8～10回の体験活動を実施）

【活動場所】 大鰐町あじゃらの森キャンプ場

【活動内容】 登山とキャンプ（1泊2日）

【参加者】 大鰐町立蔵館小学校区の小学4年生～中学3年生 20名

【活動費】 年会費1,000円と企画ごとに必要な実費を徴収

蔵館スポーツ&チャレンジクラブは、平成14年に、当時自分の子どもが蔵館小学校に在籍していた教員数名が中心となって発足しました。当初は、小学校のクロスカントリースキー部の指導者不足を補う目的でしたが、せっかく人が集まったのだから夏や秋にも活動をしようということで、活動の幅が広がっていきました。

学校で開催される春のPTA総会で説明会を実施し、会員を募集します。その後年間8回ほどの体験活動を企画し、その都度学校を通して参加者を募集します。内容はサイクリング、水泳、ねぶた運行、登山キャンプ、ドッジボール、スキー教室、お菓子作りなど、多岐にわたります。会員は毎年30名を超え、また8年間の活動を通してOBの中学生や高校生がサポーターとして参加するようになってきました。地域での理解も広がり、特に学校や保護者とは非常に良好な協力関係にあります。

スタッフ・指導者のほとんどが現役の教員であり、学校では制約があつて実施が難しい活動を、社会教育団体として実施することで補完しています。活動の目的やねらいも企画ごとにきちんと立て、事後には子どもと保護者にアンケートをとり、常によりよい活動となるよう工夫を重ねています。子どもを送り出す学校や保護者の信頼は非常に大きく、また子どもが大きく成長しているという感想が寄せられるなど、高い評価を受けています。

テント
設営



登山
後の
ミー
ティ
ング



活動の工夫、特長

- ・子どもたちの健全な成長を願い、特に自主性、協調性、規律心、コミュニケーション力などを伸ばすというねらいが、スタッフ間で共有できています。
- ・学校や保護者への働きかけを積極的に行い、また地域の子ども会など他団体との合同事業を実施するなど、地域への効果波及を意識して活動しています。
- ・企画ごとに目的や成果を確認し、常によりよい活動となるよう工夫しています。

今後の展望、課題

- ・勤労体験や福祉体験など、より多様で地域を意識した活動プログラムを開発していきたい、とのこと。
- ・子どもや保護者の負担を減らし、より安定した会の運営のために資金面が課題です。
- ・地域の保護者や住民との情報交換や交流がもっと必要だと考えています。

定期的
に会報を
発行して
います



訪問委員感想

- ◇大鰐町に、このような活動をしている先生方がたくさんいることに心強さとうらやましさを感じた。各市町村にこのような若手の教員を中心とした活動集団があれば、青森県はもっとすばらしくなると思う。
- ◇自分や家族が育てられた地域に恩返ししたいという思いがすばらしい。
- ◇学校と保護者の橋渡しの役割ができています。子どもも親も学校も、地域を意識できるようになるなど、重要な影響を与えている。 《秋庭委員》
- ◇雨の中、当然のように登山をしてきて、その後の活動にもよどみがない。学校現場ではできない自由さが社会教育の現場のよさだと再確認した。
- ◇職場で教員として子どもに接する時と、私的な活動の場で子どもに接する時では、気持ちの切替えなど難しい面もあるだろうが、このような活動を通して職業人としても家庭人としても大きく成長できていると思う。 《小笠原委員》

⑦ 根城地区合同キャンプ【八戸市】

訪問日：平成21年8月7日

訪問者：秋庭隆貢委員

対応者：実行委員長 北向幸吉さん

平間恵美委員、荒瀬 潔委員



- 地域の各団体、学校、保護者が固く結束し、連携。
- 地域ぐるみで子どもたちを育てる姿勢が、地域づくりにつながる。
- 地域で広く理解・認知され、毎年約100名の参加者が集まる。

体験活動事業の概要

- 【事業名】根城・田面木・白山台地区合同キャンプ
- 【事業主体】根城・田面木地区青少年健全育成活動実行委員会
- 【活動日】平成21年8月7日～8月8日
- 【活動場所】八戸工業大学キャンプ場
- 【活動内容】野外キャンプ（1泊2日）
- 【参加者】地区内小学校4校、中学校3校から、小学4年生～中学3年生97名
- 【活動費】参加費1,000円と各町内会からの助成金で運営

ずっと以前から行われてきた根城地区子ども会のキャンプが母体で、24年前に田面木地区と合同で開催するようになり、現在は白山台地区も入って、3地区合同の事業になっています。広域にわたり、参加者も多く、運営は難しい面もあるのですが、八戸市青少年生活指導協議会連合会長の北向さんを委員長に、実行委員会を組織し、円滑に運営されています。実行委員会は各地区青少年生活指導協議会、各地区子ども会育成連絡協議会、地区内小学校4校・中学校3校のPTA、八戸市立根城公民館で構成され、また各地区の町内会が後援しています。

企画・準備段階での活動場所は根城公民館が中心となり、また各校のPTAの集まりでも打合せや準備がなされています。学校と町内会がチラシ配布等協力し、平成21年度は小学生55名、中学生42名、ボランティアスタッフの大人33名、計130名が参加しました。内容はテント設営、炊事場作り、野外炊飯、キャンプファイヤー等の定番プログラムですが、小学生から大人までの大規模な異年齢集団による活動であるため、参加者は大きな刺激と経験を得ています。

活動の工夫、特長

- ・「家庭だけ、学校だけでは子どもは育たない」という信念で、地域ぐるみで子どもたちを育てる意思統一ができています。
- ・子どもを中心に様々な立場の大人が顔を合わせることで、新しい地域コミュニティが形成されてきています。
- ・地域の人がつながることで、小・中学校の行事や町内会行事でも地域がまとまりやすく、様々な局面での連携、協力に良い影響を及ぼしています。

今後の展望、課題

- ・協力する大人は多いが、中核となって活動する次世代の人材が不足しています。
- ・町内会の加入率は約50%で、地域コミュニティに関心のない住民や、子どもがいても会費や参加費を出したがない家庭への対応で苦労しています。
- ・若い世代の親やスタッフの育成と、子ども会組織の見直しが当面の課題である、とのこと。

テント設営



トーチ棒作り



→掲げられた各校の校旗。学校側の協力姿勢が表れています。



参加申込用紙

平成23年度 根城・田面本地区青少年健全育成活動
第28回 合同キャンプ

- 1 日時・場所 平成23年8月7日(金)～8日(土) ハツ工業大学 キャンプ場
- 2 参加者 小学4年以上、中学生、大人(保護者同伴なら小学3年以下でも可)
- 3 参加費 一人1,000円(小学生、中学生、大人とも)
- 4 日 程 8月7日(金)午後10時
白山台小・田面本小・根城小・江井小各校庭 集合
炊飯、キャンプファイヤー、ゲーム
8月8日(土)午後3時 集合場所解散
- 5 申込・締切 ●参加する人は、申込書に会費を添えて、学校に申し込んでください。
締切 7月15日(水)
●根城公民館、各町内子ども会世話人の所でも、申し込みを受け付けます。
- 6 持ち物 当日の昼食、米3合(1合×3)、食器、風呂、軍手、寝袋又は毛布、着替え、洗剤、歯ブラシ、タオル、寝具、寝具、古いタオル1枚、新聞紙1枚
- 7 服装 Tシャツ、ズボン、帽子、長靴、長ズボン
- 8 引率責任者 根城・田面本地区青少年健全育成活動合同キャンプ実行委員会
委員長 北 向 幸 吉
- 9 問合せ 根城小学校 ☎22-0248 江井小学校 ☎46-2431
田面本小学校 ☎27-3424 白山台小学校 ☎27-9200
根城中学校 ☎44-1259 白山台中学校 ☎70-1570
根城公民館 ☎44-6927

合同キャンプ申込書

参加者名	性別	小学・中学・大人	学年	安全会・班
参加者名	性別	小学・中学・大人	学年	安全会・班
参加者名	性別	小学・中学・大人	学年	安全会・班
住 所	〒			
保護者印(実印書)	勤	町内会名	学校名	

訪問委員感想

- ◇根城公民館職員が村長。各校の校長・教頭も顔を出し、スタッフのPTAも子どもが卒業後もOB会として活動するなど、地域の連携の良さが伝わってくる。 《秋庭委員》
- ◇スタッフや参加している大人の、地域で子どもを育てようとする思いを、各家庭の親や無関心な地域住民に理解させたい。難しいことだが、地域で共に暮らすことの意義や、次代を担う子どもはまちの宝という共通認識を持って、粘り強くコミュニティづくりに取り組む必要があると感じた。
- ◇新たに見直しが必要な子ども会の役割について、もう一度確認する良い機会である。
- ◇様々な意味で原点に戻り、子どもたちを地域で育てることを考えていける活動。
- ◇大きな成果をあげられる事業を長く継続していくためには、北向さんのように強いリーダーシップを持つ人が必要であると実感した。 《平間委員》
- ◇地域を挙げて運営しており、町内会に未加入の家庭の子どもたちも受け入れるなど、地域社会の融和に向けた視点もみられる。
- ◇ボランティアリーダーの育成は一朝一夕では達成できないが、息の長い活動の中に、将来への期待を抱くことができる。 《荒瀬委員》

⑧ よむよむ応援隊【藤崎町】

訪問日：平成21年8月26日

訪問者：一條敦子委員
(小笠原睦男委員)

対応者：代表 岩谷真佐子さん 木村美智子さん



- 保護者と地域住民による、小学校での読み聞かせ活動。
- 無償の学校支援ボランティアだが、地域住民の自発的意思で集い、団体として機能。
- 始業前20分間の活動だが、毎週2回、7年以上継続。

体験活動事業の概要

【事業名】小学校での朝読書・読み聞かせボランティア

【事業主体】よむよむ応援隊

【活動日】1年を通して、毎週水曜日と木曜日

【活動場所】藤崎町立藤崎小学校・藤崎中央小学校の1年～6年全クラス

【活動費】なし。読み聞かせの本や教材は活動者が各自で用意する。

平成15年に、当時の藤崎小学校の阿部校長から、子どもたちに本を読む習慣を身につけさせたいと相談があり、読み聞かせグループ「わっこの会」が母体となって始まりました。やがて「朝読書の会」「よむよむの会」と改名しながら、保護者や地域住民の協力者を募り、現在約20名の会員で活動を継続しています。会の中核メンバー3人で小学校の活動スケジュールに合わせ活動日を調整し、活動メンバーを決定します。

活動は年間を通して、毎週水曜日に藤崎小学校、毎週木曜日に藤崎中央小学校で本の読み聞かせをしています。教員が朝の職員会議で教室を離れる間、8:00～8:15まで、1年生～6年生の各教室に出向いて読み聞かせを行います。教室の数だけ読み手が必要なので、藤崎小学校の場合、最低でも10名の読み手が参加しています。

活動メンバーのほとんどは女性で、仕事を持っている方も多いのですが、地域の学校や子どもたちのためにと、お互いに都合をつけ合いながら7年以上も活動が続けられています。これはボランティア精神だけでなく、本選びから実演まで自分の裁量で自由にできること、その中で読み聞かせの技量が上がり、さらに熱心に聞き入ってくれる子どもたちがいること、そのことが大きな喜びになっているから続けられるのでしょう。学校としても、受け入れる教員の負担は皆無で、それでいて朝から子どもたちが落ち着く、読書に親しむ子が増えるなど、大きな教育効果を得ることができています。



活動の工夫、特長

- ・担任の先生がいない教室で、本選びから読み聞かせの手法、子どもへの対応まで、活動者個人の裁量に全て任されています。子どもたちの反応がそのまま返ってくることで、活動者のスキルアップにつながっています。
- ・毎回違う読み手が違う本を読み聞かせるので、子どもにとっても読み手にとっても、常に適度な緊張感と新鮮な気持ちを持って活動できています。
- ・活動者の控え室は校長室で、活動報告ノートが置いてあります。活動後に各自が読み聞かせた本やクラスの様子、感想等を書き記し、そのノートは誰でも自由に見ることができます。次に自分が行くクラスの様子を調べたり、何の本を選ぶかの参考として活用しています。
- ・本を読む習慣を身につけて、言語力や表現力、感性を豊かにすることを目的にしていますが、それ以上に、先生以外の地域の大人が、違う顔ぶれで違う本を毎週読み聞かせてくれる、その経験が目に見えない大きな教育的効果を生んでいます。

今後の展望、課題

- ・週2回、短時間とは言っても、毎回10名以上のメンバーを確保し、また急な欠員が出た時の対応など、その苦労は大変なものがあります。特に若い保護者などの協力者を増やすことが課題です。
- ・本は各自が用意するので、活動が長くなるほど本の選定が大変になる、とのこと。
- ・自由に自分の裁量で活動できるので、やりがいと責任感が増す。それだけにより良い読み聞かせができるようになりたいと思うが、研修の機会が少なく、あっても仕事を持っていると参加が難しい場合が多い、とのこと。

訪問委員感想

- ◇読み聞かせや読書活動は、子どもの情操教育に役立つだけではなく、子どもの成長に様々な影響を及ぼすものであると感じている。見学の場面でも、授業前の子どもたちへの読み聞かせ活動は、子どもたちが授業に落ち着いて取り組むことにつながる効果があると感じた。
- ◇派手な活動ではないが、スタッフ一人一人が子どもの成長に関心を持ち、子どもたちの幸せを守りたいという気持ちを持って、独自の読み聞かせを練習し開発していた。そんなスタッフの読み聞かせを素直に喜ぶ子どもたち、その感動がさらにスタッフの研究心を高める…大人と子どもが互いに満足する良い活動であると思う。
- ◇地域の人たちの自発的で自律的な素晴らしい活動。その中で、各自が上手に自分を表現し社会活動としている点は、生涯学習としても充実した活動であると思う。スタッフの希望する「研修の機会」が提供され、さらにレベルアップした活動になることを期待する。 <<一條委員>>

⑨ NPO法人水辺の楽校まべち 【八戸市】

対応者：代表 池田光則さん ほか

訪問日：平成21年10月6日

訪問者：秋庭隆貢委員、一條敦子委員



- 地域の小・中学校と連携した環境教育。
- 歴史は浅いが、地域の自然や風景の大切さを説くために着実な活動。
- 学校と互いにメリットのある良好な協力関係を築く。

体験活動事業の概要

- 【事業名】下長中学校さわやかワークタイム（環境教育・奉仕活動）
- 【事業主体】八戸市立下長中学校、NPO法人水辺の楽校まべち
- 【活動日】平成21年10月6日（終日）
- 【活動場所】水辺の楽校まべち（馬淵大橋付近の馬淵川兩岸）
- 【活動内容】環境講義、馬淵川環境整備作業
- 【参加者】下長中学校1年生213名（教員11名、水辺の楽校職員4名）
- 【活動費】中学校の行事費

水辺の楽校は、馬淵川の環境保全の拠点となるビオトープとして、国土交通省と八戸市が整備した事業で、八戸地区水辺の楽校整備検討委員会で構想を練り、平成18年7月に完成しました。当時、下長公民館館長であり、検討委員でもあった池田さんが学校長となり、また安定した活動をするためにNPO法人化して現在に至っています。馬淵川の兩岸約20haの広大な土地で、下流に向かって右岸が「ピチャピチャランド」と呼ばれ、湧水を引いて長さ100mの小川を整備し、ホタルやトンボなど昆虫が生息できる環境にしています。左岸は「ワンド」と呼ばれ、川の水を迂回させて川のよどみと沼地を整備し、魚や水鳥が集まる環境にしています。

NPO法人は理事8名、会員約20名で運営していますが、完成後は行政の援助がなくなり、法人としての歴史も浅いため、人手も資金も不足しがちです。特に、広大な水辺の楽校の維持管理には多くの人手とお金が必要で、行政や企業などに働きかけて助成金や寄付金を集めたり、地元の小・中学校との連携を図って、子どもたちが環境整備に協力するよう働きかけるなど、賛同者の輪を広げる努力を続けています。行政の斡旋もあって平成21年度は市内7校で環境教育活動を実施し、また他の自然活動団体と共催で川下りの体験活動を実施するなど、地域での認知度も着実に上がってきています。

今回の活動は、下長中学校の総合的な学習の時間の授業の一環として、1年生全員が参加しました。もともと地元の公民館館長であった池田さんと地元の学校とは良好な協力関係ができており、学校との連携協力はスムーズに行われています。今回の活動以外にも、2年生の職業体験の場として5名の生徒が働いたり、科学部の生徒が放課後、自主的にビオトープの整備に来るなど、水辺の楽校の活動は着実に次世代へと広がってきています。

活動の工夫、特長

- ・自分の住む地域を誇りに思い大切に作る心、その原点がふるさとの風景・自然を大切にすることである、という固い信念のもと、困難を乗り越え活動しています。
- ・環境教育や奉仕体験のねらいと同時に、地域のために精力的に活動している池田さんの生き方や考えに触れさせたいという先生たちの思いがあるので、活動が単発のイベントで終わらず協力関係が継続できています。
- ・現代の子どもたちは全体に自然体験が少ないが、特に川遊びは禁止され、水辺で遊んだ経験が全くない子がほとんどです。それだけに水や泥に汚れながら、川岸の植物や生物に触れたり、水の底がどうなっているかを身をもって体験することは、大人が思う以上に大きな効果や影響を子どもたちに与えています。



↑ 「ワンド」 ↑
《沼地のビオトープ》



← 「ピチャピチャランド」 ↑
《小川のビオトープ》

今後の展望、課題

- ・行政の大きな事業費で立派なビオトープができましたが、維持管理に膨大な労力がかかるため、人とお金が不足しています。
- ・緊急性が低く感じられるせいか、「環境」だけでは地域の大人たちの理解と協力が得られにくい、とのこと。
- ・地域の自然や環境に興味を持ち、少しでも自分にできることを考えて行動する大人になってほしいと願い、地道に子どもや若い世代に働きかけている、とのこと。

訪問委員感想

- ◇代表の池田さんの、地域環境に対する理念と一生懸命な姿が印象に残った。
- ◇生徒たちは初め水に濡れたり汚れることをためらっていたが、慣れてしまうと嬉々として活動しており、すばらしい光景であった。
- ◇行政と住民は車の両輪である。どのような地域づくりをするのか、行政も含めて地域全体で取り組むことで、地域の力を上げるチャンスともなる。 《秋庭委員》
- ◇水辺の楽校まべちの活動は、環境を守るための社会活動として重要な活動であると思う。このような活動が学校教育活動の一助となるためには、先生方との連携・話し合いがとても大切であり、お互いの得意な面・善さが活かされていってほしいと思う。 《一橋委員》